

オンライン・ハイブリッド型学習 Tokkatsuの実践例

恒吉僚子 東京大学大学院教育学研究科・教授

新型コロナウイルスが各国で流行する中、学校の休校による教育のオンライン化が世界的規模で、またかつてない速度で進行しています。学校が再開された国においても、オンライン化と対面式が同時に行われるハイブリッド型の学習が進められたりしています。

このような状況下において、オンラインで教育にアクセスできるか否かによる格差の拡大や、学校の休校によって対人関係の育成や対面式に学校が提供してきた様々なサービスや活動から切り離されることが、立場の弱い子ども達にとって大きな問題であることが国際的にも議論されています。

児童会活動等の教科以外の活動をも教育内容に含め、全人的に子どもを育成していこうとするモデル例として、Tokkatsuがパンデミックの前に国際的な関心を得ていたことは前に述べたと思います。「三密」を作り出さない形で、いかにこうした全人的な枠組みを保ちうるのか、ピンチをチャンスに変えられるのかも、今の日本の学校に問われていると言えましょう。

そうした中で、オンライン・ハイブリッド型の学習として、教科だけでなく、児童会活動等を行なっている熊本市立帯山西小学校の事例が、OECD（経済協力開発機構）の関連ホームページに掲載されました。

OECD Education and Skills Today

<https://oecdutoday.com/coronavirus/#Continuity-stories>

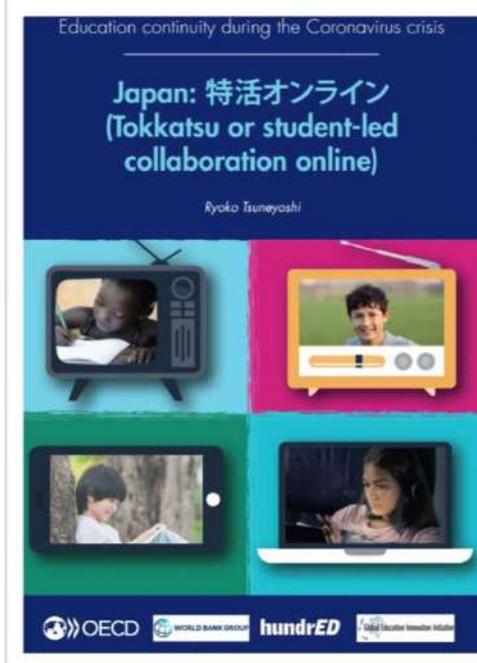
特集：危機に対応する各国の教育からの学び

OECDがハーバード・グローバル教育・イノベーション・イニシアティブ「HundrED」と世界銀行グループ・エデュケーション・グローバル・プラクティスとによって、新型コロナウイルスの危機的状況に各国の教育がどのように立ち向かっているのかを特集したシリーズです。（上記ホームページから要約）

特集例 イギリス：BBCを通しての無料オンライン教育や教育放送、ウガンダ：マイノリティ言語のラジオレッスン

論文ダウンロードはこちらから

<https://oecdutoday.com/wp-content/uploads/2020/07/Japan-Tokkatsu.pdf>



この秋、これに関連したオンラインの国際シンポジウムを予定しております。詳細は、ニュースレターでお知らせしたいと思います。

発行/国際教師力研究会

<https://globaledumulti.jimdofree.com/>
E-mail: globaledumulti@gmail.com